

バーコードで 調剤ミス防止

薬剤師に強い「味方」

薬品卸の「クカメディカル」（奈良市、宗本忠典社長）が、薬の包装箱のバーコードを活用して、薬剤師の調剤ミスを防止するシステム「ミスゼロ子」を開発した。薬剤師が薬を取り出す際に、バーコードを携帯端末で読み取って処方箋の内容と照合し、間違った薬を取り出そうとしないかどうかをチェックする。バーコードを使った調剤ミス防止装置は全国で初めてといい、同社は特許を出願している。

36000種類の薬に対応

薬局の受付は医師の処方箋に従って、診療報酬明細書（レセプト）を作成するコンピュータ（レセコン）に患者の名前や薬品名、使用方法などを入力しており、ミスゼロ子にはこのレセコンのデータが活用されている。あらかじめ薬の包装箱から切り取ったバーコードを薬品収納ボックスなどに張り付けておき、薬剤師は薬を取り出す前に携帯端末で読み取る。データは無線でレセコンにつながれた専用パソコンに送信され、レセコン内の処方データと照合する

「ことにより、間違った薬なら画面に「エラー」が表示される仕組みだ。「エラー」以外にも似た名前の薬がある場合に「注意」の表示が出るほか、処方された数量、使用方法も表示される。また、調剤済みの薬の数もカウントされ、「調剤漏れ」を防止する機能もある。レセコンメーカー七社と協力し、約三万六千種類の薬に対応できるとしている。

同社の開発スタッフは「医薬品の中には、似た名前でも薬効が違う薬も多く、こうしたことが調剤ミスにつながっている。ミスゼロ子の開発には約三年をかけた」と話している。

日本薬剤師会（本部・東京）によると、調剤ミスをで、間違った薬を患者に渡したミスは平成十三年度に四十五件、十四年度には四十七件が発生している。しかし、「未然にミスに気付いた」というケースは十三年度で約四千件に上っており、患者に手渡される前のチェックの重要性が指摘されている。



クカメディカルが開発した「ミスゼロ子」の携帯端末。奈良市内の同社系列薬局

中堅・ベンチャー

同社の尾上慶幸・ソフト関連上席ゼネラルアドバイザーは「調剤ミスは人的なミスが多く、薬局の経営に打撃を与える。現場の声を反映し、使いやすいものを目指した」としている。

問い合わせは同社（0742・41・3652）まで。